



Amazon SageMaker Training (座学編)

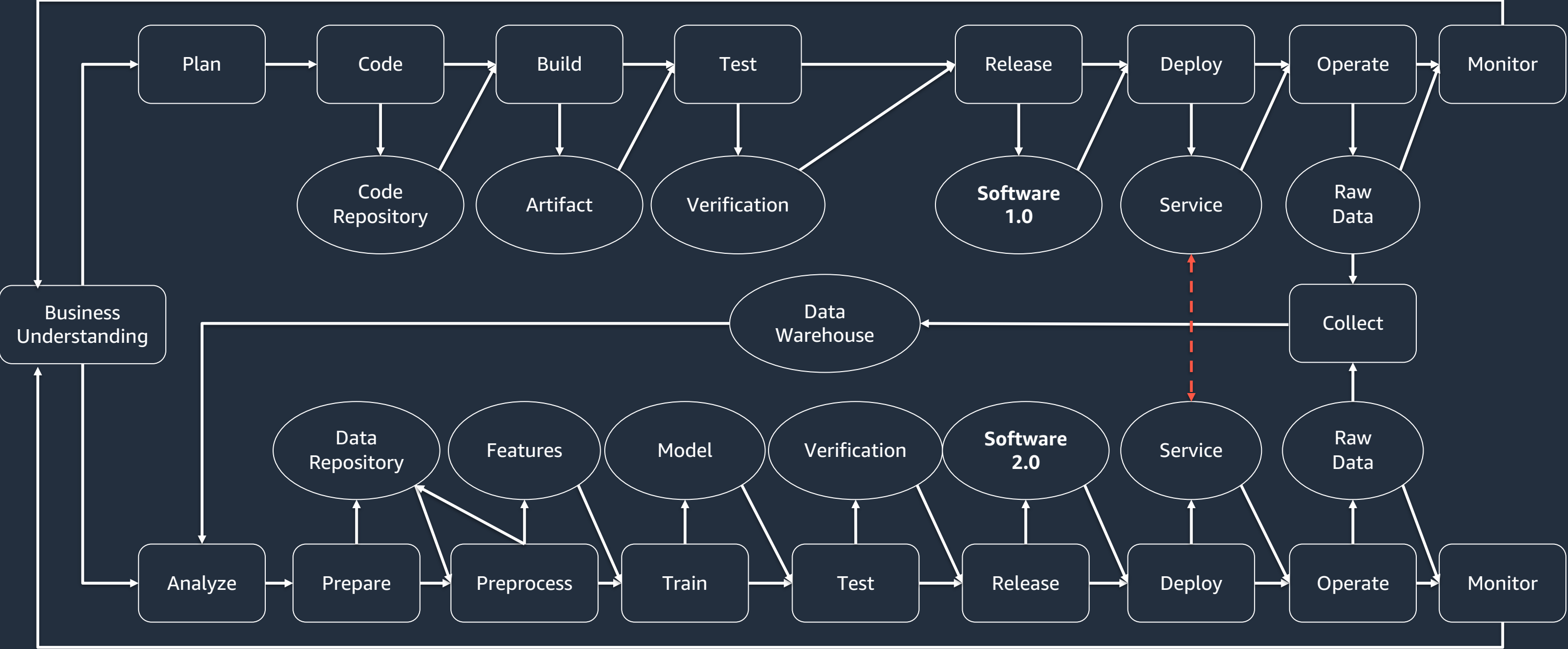
機械学習のモデル開発の 試行錯誤を簡単にする

機械学習ソリューションアーキテクト
呉 和仁



DevOps & MLOps 🗑️

DevOps



MLOps

DevOps & MLOps を実現するロールマップ

Architect Software1.0に必要なソフトウェアアーキテクチャ全体を設計する。

DevOps Engineer ソフトウェアの開発・運用プロセスを自動化する。

Product Manager
実装すべきソフトウェア機能を定義する。

Software Engineer

ソフトウェアの開発を行う。

Code Repository

Artifact

機械学習のモデル構築にあたって、Amazon SageMaker Training を用いてモデル開発の試行錯誤を簡単にする仕組みを紹介

Business Analyst
解決すべきビジネス上の問題を定義する。

Data Analyst
データの可視化と分析で問題を定量的に特定する。

IT Auditor

システム

Data architect データを管理する基礎となる。

Domain Expert

あるべき挙動をデータを用いて定義する。評価尺度を定義する。

Data Engineer

機械学習モデルに入力可能なデータと特徴を作成する。

Data Scientist

機械学習モデルを構築する

Warehouse ML Engineer

機械学習モデルを本番環境にデプロイ可能な形式に変換する。

ML Operator

推論結果に基づき業務を行いつつ、推論結果にフィードバックを与える。

Model risk Manager

Software2.0のサービスの挙動を監視する。

MLOps Engineer 機械学習モデルの開発・運用プロセスを自動化する。

AI/ML Architect Software2.0に必要なアーキテクチャ全体を設計する。

この動画のゴール

- Amazon SageMaker Training の基本機能を理解して、セッション終了後すぐにコードを書いて実行できる
- 必要な事前知識
 - Python のコードの読み書きができること
 - 機械学習のチュートリアルを完了した程度の機械学習に関する知識
- またの機会に
 - ビルトインアルゴリズム
 - BYOC
 - 分散学習など

おしながき

- 機械学習のトレーニングで発生する課題
- Amazon SageMaker Training の概要
- 実際に動作するコードを用いたトレーニング開始方法
- Tips

おしながき

- 機械学習のトレーニングで発生する課題
- Amazon SageMaker Training の概要
- 実際に動作するコードを用いたトレーニング開始方法
- Tips

機械学習のトレーニングでよくある課題

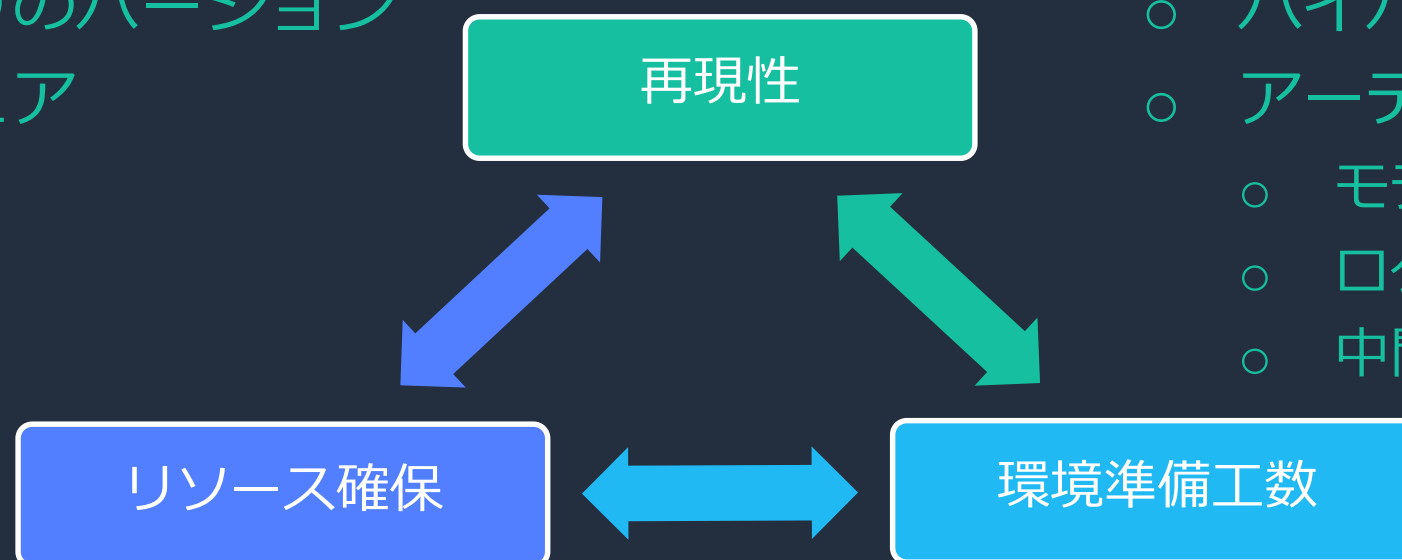
○ 再現性とリソース確保と環境準備工数が密結合

○ 実行環境

- OS
- ライブラリのバージョン
- ハードウェア

○ 実験記録の欠如

- データの変更・確保
- ハイパーパラメータの変更
- アーティファクト管理
 - モデル
 - ログ
 - 中間生成物など



○ リソース不足

- 開放まで待機
- 調達納期

○ ハードウェア使用の準備

- 各種ライブラリインストール

クラウドと周辺技術を適切に使えば解決できるものばかり

- 効率的にオーケストレーションする方法はないのか？

- 実行環境(動作・精度)
 - コンテナ
 - OS
 - ライブラリのバージョン
 - ハードクラウド

- 実験記録の欠如(精度)
 - データの記録・確保
 - ハイパーパラメータの変更
 - アーティファクト管理
 - モデルクラウド
 - ログ
 - 中間生成物など

再現性

リソース確保

環境準備工数

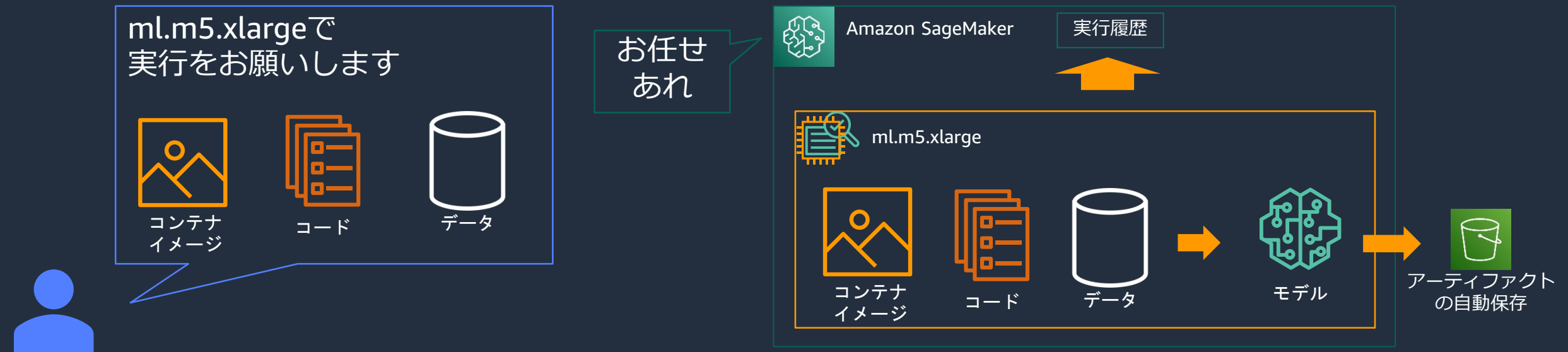
- リソース不足
- クラウド
- 開放まで待機
- 調達納期

- クラウド
- ハードウェア使用の準備
- 各種AWS管理のツール
- コンテナ
- イメージ

Amazon SageMaker Training でオーケストレーション

Amazon SageMaker Training が提供するサービスを 1 文 で表すならば

「用意したコード」と「用意したデータ」を
「指定したコンピューティングリソース」と「用意した環境」で実行し、
「実行履歴を自動記録」して「アーティファクトを自動で保存」する機能
を提供する



※ただし全てをユーザで用意する必要はなく AWS でも用意している

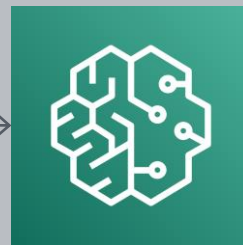
おしながき

- 機械学習のトレーニングで発生する課題
- Amazon SageMaker Training の概要
- 実際に動作するコードを用いたトレーニング開始方法
- Tips

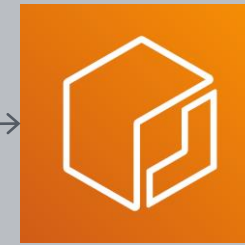
Amazon SageMaker Training を構成する要素



Amazon S3



Amazon SageMaker



Amazon ECR

SageMaker
Python SDK

学習データ



学習スクリプト



DL / ML
実行環境



Amazon SageMaker Python SDK

- Amazon SageMaker Python SDKは、Amazon SageMaker 上でモデルの学習やデプロイなどを行うためのオープンソースライブラリ
- データサイエンティストが簡単かつ便利に AWS を使えるよう、Amazon SageMaker とその周辺のサービスに絞った高レベル API を提供
- pip でインストール可能で、手元の PC から利用可能

ソースコード : <https://github.com/aws/sagemaker-python-sdk>

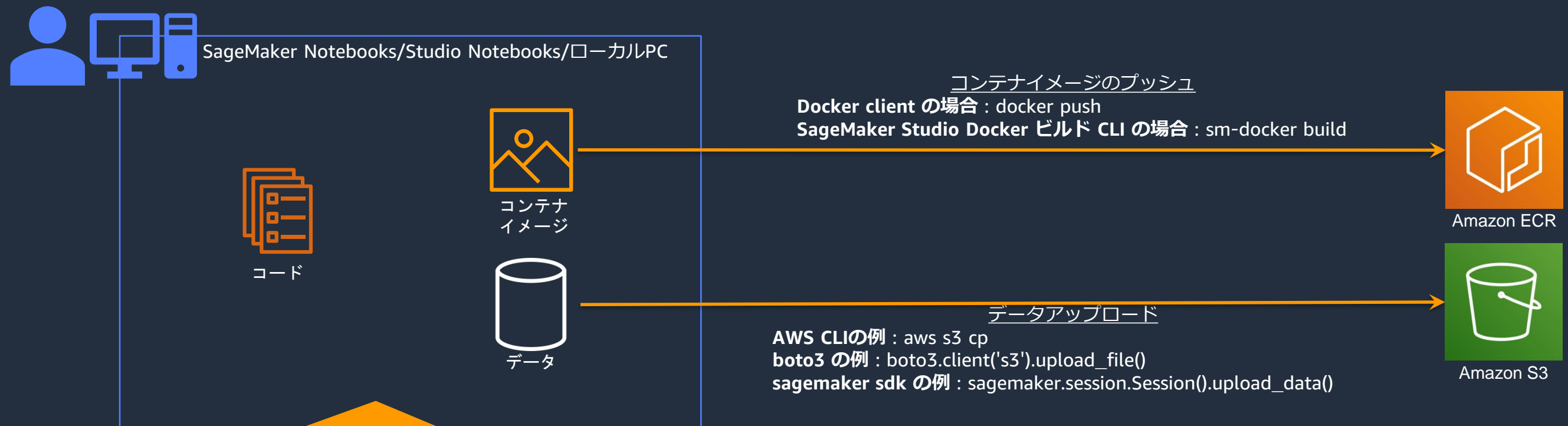
Doc : <https://sagemaker.readthedocs.io/en/stable/>

※ Amazon SageMaker 自体は AWS CLI や boto3 などからも利用可能

SDK でトレーニングを開始する準備

(必要に応じて)

- トレーニングデータとトレーニング用のコンテナイメージを用意し、それぞれ Amazon S3 と Amazon ECR に格納する
- トレーニングコードを手元に用意する

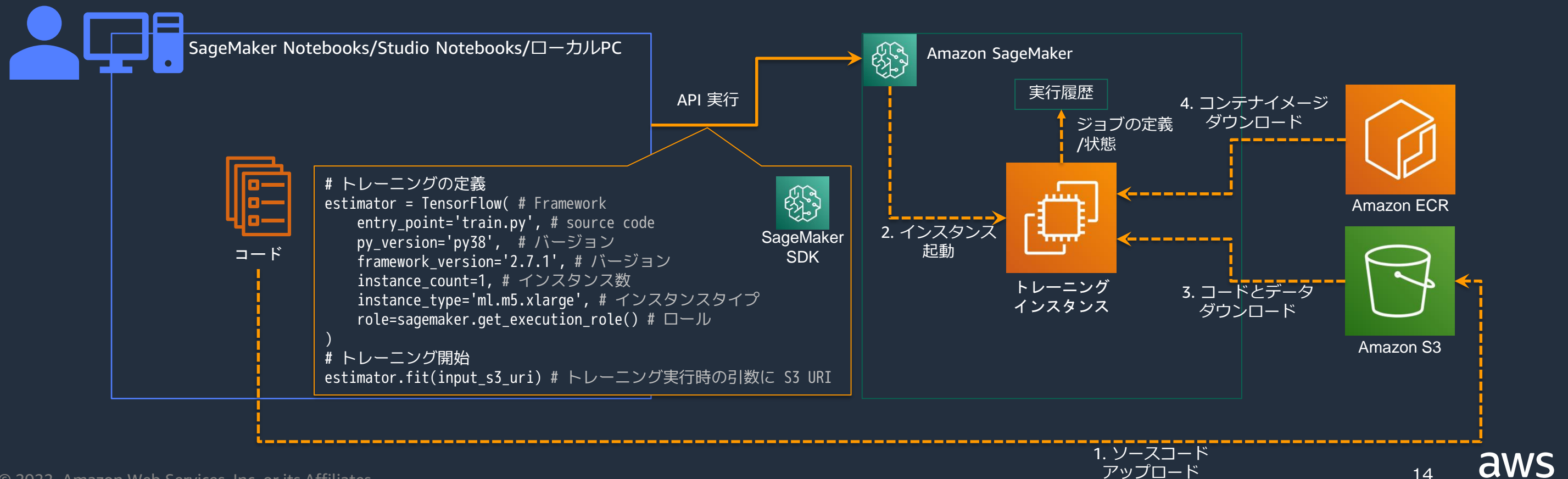


(ローカル PC の場合は事前に) `pip install sagemaker`
(sm-docker を使う場合は事前に) `pip install sagemaker-studio-image-build` (※)

※詳細はこちら
<https://github.com/aws-samples/sagemaker-studio-image-build-cli>

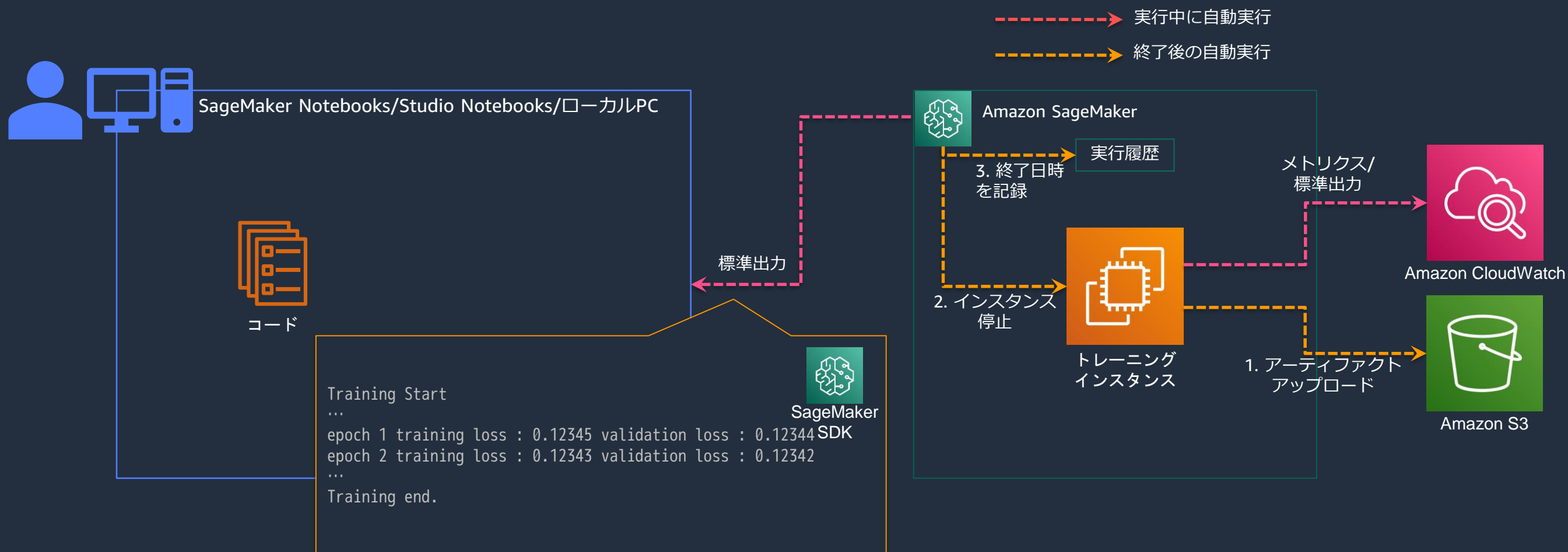
SDK の API でトレーニングを開始する

- トレーニングを定義して、トレーニングを開始
 - トレーニングコード(ローカル,もしくはGitリポジトリ), データ(S3 URI), コンテナ(イメージの URI, もしくはフレームワークとバージョンとインスタンスタイプ)を定義
 - 各フレームワークごとにジョブ定義用の Estimator クラスを利用して、使用するコードやバージョンを定義する



トレーニング完了時は自動でリソース削除

- 指定ディレクトリにアーティファクトを配置することで自動でトレーニング完了時にアーティファクトが Amazon S3 に転送
- ジョブ終了時に自動でインスタンスが削除され課金が停止
- 実行中の標準出力やメトリクスは CloudWatch に自動転送



SageMaker で使える AWS が管理・公開しているコンテナ

AWS が予め SageMaker に最適化された各フレームワークのコンテナイメージを準備しており、GPUや分散学習などを利用したトレーニングをすぐに開始可能

- AWS Deep Learning Container

<https://github.com/aws/deep-learning-containers>

- TensorFlow

- PyTorch

- MXNet

- Hugging Face

- SageMaker Scikit-learn Container

<https://github.com/aws/sagemaker-scikit-learn-container>

- scikit-learn

おしながき

- 機械学習のトレーニングで発生する課題
- Amazon SageMaker Training の概要
- 実際に動作するコードを用いたトレーニング開始方法
- Tips

記載のコードは GitHub にて公開

- SageMaker Notebook や SageMaker Studio Notebook から以下のコマンドで取得可能
git clone <https://github.com/aws-samples/aws-ml-jp>
- clone した後、下記ノートブックを参照してください。
(ディレクトリ) sagemaker/sagemaker-training/tutorial/
(ノートブック) 1_hello_sagemaker_training.ipynb
- 詳細はデモ編の動画を参照してください。

1-1 用意したコードを実行する(トレーニングの実行)

各フレームワーク用の Estimator で entry_point 引数にコードを指定し、fit メソッドで実行

```
# 「用意したコード」 ./src/1-1/hello_sagemaker_training.py
print('Hello SageMaker Training')
exit()
```

```
# TensorFlow コンテナで Training Job
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow
estimator = TensorFlow(
    entry_point='./src/1-1/hello_sagemaker_training.py',
    py_version='py38',
    framework_version='2.7.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

```
# PyTorch コンテナで Training Job
from sagemaker.pytorch import PyTorch
estimator = PyTorch(
    entry_point='./src/1-1/hello_sagemaker_training.py',
    py_version='py38',
    framework_version='1.9.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

```
# MXNet コンテナで Training Job
from sagemaker.mxnet import MXNet
estimator = MXNet(
    entry_point='./src/1-1/hello_sagemaker_training.py',
    py_version='py37',
    framework_version='1.8.0',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m4.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

```
# HuggingFace コンテナで Training Job
from sagemaker.huggingface import HuggingFace
estimator = HuggingFace(
    entry_point='./src/1-1/hello_sagemaker_training.py',
    py_version='py37',
    transformers_version='4.6.1',
    tensorflow_version='2.4.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.g4dn.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

```
# scikit-learn コンテナで Training Job
from sagemaker.sklearn import SKLearn
estimator = SKLearn(
    entry_point='./src/1-1/hello_sagemaker_training.py',
    py_version='py3',
    framework_version='0.23-1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.c5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

実行結果

(略)

Hello SageMaker Training

(略)

1-2-1 トレーニングインスタンスにデータを持ち込む 単一ファイル編(トレーニングデータを持ち込む)

Estimator の使い方は変わらず、fit メソッド実行時に持ち込みたいデータの URI を指定する。
upload_data は該当ファイルの S3 URI を返す。

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-2-1/calc.txt
3+4
4-2
5*1
6/2
```



```
# S3 にデータをアップロード
import sagemaker
input_s3_uri = sagemaker.session.Session().upload_data(
    path='./data/1-2-1/calc.txt',
    bucket=sagemaker.session.Session().default_bucket(),
    key_prefix='training/1-2'
)
```



```
# 「用意したコード」 ./src/1-2-1/calc.py
import os
input_dir = os.environ.get('SM_CHANNEL_TRAINING')
input_txt_path = os.path.join(input_dir, os.listdir(input_dir)[0])
with open(input_txt_path, 'rt') as f:
    input_text_lines = f.read()
for input_text_line in input_text_lines.split('\n'):
    print(eval(input_text_line))
exit()
```



```
# トレーニングジョブを実行
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow
estimator = TensorFlow(
    entry_point='./src/1-2-1/calc.py',
    py_version='py38',
    framework_version='2.7.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit(input_s3_uri)
```



コード実行前に当該データが、トレーニングインスタンスの
環境変数 `SM_CHANNEL_TRAINING(=/opt/ml/input/data/training/)`
指定されるディレクトリに転送される

```
実行結果
(略)
7
2
5
3.0
(略)
```

1-2-2 トレーニングインスタンスにデータを持ち込む 単一ディレクトリ編(トレーニングデータを持ち込む)

アップロードする際の指定を、ファイルからディレクトリにするとディレクトリ以下のファイル全てが転送される(upload_dataメソッドの戻り値はファイルの URI から prefix になる)

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-2-2/calc1.txt  
2+2  
3-1
```

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-2-2/calc2.txt  
5*1  
16/2
```

```
# 「用意したコード」 ./src/1-2-2/calc.py  
import os  
input_dir = os.environ.get('SM_CHANNEL_TRAINING')  
for file_name in sorted(os.listdir(input_dir)):  
    input_txt_path = os.path.join(input_dir, file_name)  
    with open(input_txt_path, 'rt') as f:  
        input_text_lines = f.read()  
        for input_text_line in input_text_lines.split('\n'):  
            print(eval(input_text_line))  
exit()
```

```
# S3 にデータをアップロード  
import sagemaker  
input_s3_uri = sagemaker.session.Session().upload_data(  
    path='./data/1-2-2/',  
    bucket=sagemaker.session.Session().default_bucket(),  
    key_prefix='training/1-2-2'  
)
```

```
# トレーニングジョブを実行  
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow  
estimator = TensorFlow(  
    entry_point='./src/1-2-2/calc.py',  
    py_version='py38',  
    framework_version='2.7.1',  
    instance_count=1,  
    instance_type='ml.m5.xlarge',  
    role=sagemaker.get_execution_role()  
)  
estimator.fit(input_s3_uri)
```

ディレクトリ単位でアップロードしても
環境変数 **SM_CHANNEL_TRAINING(=/opt/ml/input/data/training/)**
指定されるディレクトリに転送されるのは変わらない

```
実行結果  
(略)  
4  
2  
5  
8.0  
(略)
```

1-2-3 トレーニングインスタンスにデータを持ち込む 複数ディレクトリ編(トレーニングデータを持ち込む)

train用, validation用, test用といった分割や、交差検証のようにデータを分割した場合もそれぞれアップロードして、dict 型で渡すだけ

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-2-3/fold1/calc.txt  
1+2  
3+4
```

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-2-3/fold2/calc2.txt  
5+6  
7+8
```



```
# S3 にデータをアップロード  
import sagemaker  
fold1_input_s3_uri = sagemaker.session.Session().upload_data(  
    path='./data/1-2-3/fold1/', bucket=sagemaker.session.Session().default_bucket(),  
    key_prefix='training/1-2-3/fold1'  
)  
fold2_input_s3_uri = sagemaker.session.Session().upload_data(  
    path='./data/1-2-3/fold2/', bucket=sagemaker.session.Session().default_bucket(),  
    key_prefix='training/1-2-3/fold2'  
)
```



```
# 「用意したコード」 ./src/1-2-3/calc.py  
import os, json  
channels = os.environ.get('SM_CHANNELS')  
channels_list = json.loads(channels)  
for channel in channels_list:  
    input_dir = os.environ.get('SM_CHANNEL_' + channel.upper())  
    for file_name in os.listdir(input_dir):  
        input_txt_path = os.path.join(input_dir, file_name)  
        with open(input_txt_path, 'rt') as f:  
            input_text_lines = f.read()  
            for input_text_line in input_text_lines.split('\n'):  
                print(eval(input_text_line))  
exit()
```



```
# トレーニングジョブを実行  
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow  
estimator = TensorFlow(  
    entry_point='./src/1-2-3/calc.py',  
    py_version='py38',  
    framework_version='2.7.1',  
    instance_count=1,  
    instance_type='ml.m5.xlarge',  
    role=sagemaker.get_execution_role()  
)  
estimator.fit({  
    'fold1': fold1_input_s3_uri,  
    'fold2': fold2_input_s3_uri,  
})
```



```
実行結果  
(略)  
3  
7  
11  
15  
(略)
```

fitにdict型を入れることで、複数の S3 prefix 以下のファイルを転送できる。
転送先のリストは環境変数 SM_CHANNELS で保有しているチャンネルリストから参照できる、
環境変数 SM_CHANNEL_{dictのキー} の値。この場合は、
SM_CHANNEL_FOLD1(=/opt/ml/input/data/fold1)と、
SM_CHANNEL_FOLD2(=/opt/ml/input/data/fold2)

1-3 アーティファクトを S3 に転送する(モデルの保存)

S3 に転送したいファイルを環境変数 `SM_MODEL_DIR` で指定されるディレクトリもしくは、環境変数 `SM_OUTPUT_DATA_DIR` で指定されるディレクトリに保存しておく、ジョブ完了時に自動で S3 に転送される。

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-3/data1.txt  
1,2  
3,4
```

```
# 「用意したデータ」 ./data/1-3/data2.txt  
5,6  
7,8
```

```
# 「用意したコード」 ./src/1-3/concat.py  
import os, json  
channels = os.environ.get('SM_CHANNELS')  
model_dir = os.environ.get('SM_MODEL_DIR')  
channels_list = json.loads(channels)  
output_txt = ''  
for channel in channels_list:  
    input_dir = os.environ.get('SM_CHANNEL_' + channel.upper())  
    for file_name in sorted(os.listdir(input_dir)):  
        input_txt_path = os.path.join(input_dir, file_name)  
        with open(input_txt_path, 'rt') as f:  
            output_txt += f.read() + '\n'  
with open(os.path.join(model_dir, 'output.csv'), 'wt') as f:  
    f.write(output_txt)  
print('processing completed')  
exit()
```

```
# S3 にデータをアップロード  
import sagemaker  
input_s3_uri = sagemaker.session.Session().upload_data(  
    path='./data/1-3/',  
    bucket=sagemaker.session.Session().default_bucket(),  
    key_prefix='training/1-3'  
)
```

```
# トレーニングジョブを実行  
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow  
estimator = TensorFlow(  
    entry_point='./src/1-3/concat.py',  
    py_version='py38',  
    framework_version='2.7.1',  
    instance_count=1,  
    instance_type='ml.m5.xlarge',  
    role=sagemaker.get_execution_role()  
)  
estimator.fit(input_s3_uri)
```

```
実行結果  
(略)  
processing completed  
(略)
```

`SM_MODEL_DIR(=/opt/ml/model)` に保存した場合は `model.tar.gz`
`SM_OUTPUT_DATA_DIR(=/opt/ml/output/data)` に保存した場合は `output.tar.gz`
というファイル名で S3 に転送。

`SM_MODEL_DIR` は SageMaker SDK でモデルをホスティングするときのモデルとしてそのまま使える機能を有する

アーティファクトの確認

- ジョブの実行結果にある S3ModelArtifacts から model.tar.gz の URI を抽出できる

```
import tarfile
# S3 URI を取得して prefix 部分を抽出
prefix = estimator.latest_training_job.describe()['ModelArtifacts']['S3ModelArtifacts'].replace(
    f's3://{sagemaker.session.Session().default_bucket()}/', ''
)
# アーティファクトをダウンロード
sagemaker.session.Session().download_data(
    './', sagemaker.session.Session().default_bucket(), key_prefix=prefix
)
# 解凍
with tarfile.open('./model.tar.gz', 'r') as f:
    f.extractall()
# 中身を出力
with open('./output.csv', 'rt') as f:
    print(f.read())
```

実行結果

```
1,2
3,4
5,6
7,8
```


自動で記録されるものを確認

SageMaker SDK や boto3, マネジメントコンソールなどから確認できる

- コンテナイメージ
 - 入力データ
 - ソースコード
 - 実行時間
 - インスタンスタイプ
 - アーティファクト
 - ハイパーパラメータ(後述)
- など

入力データ設定: training	
チャンネル名 training	データソース S3
入力モード -	S3 データタイプ S3Prefix
コンテンツタイプ -	S3 データディストリビューションタイプ FullyReplicated
圧縮タイプ None	URI s3://sagemaker-us-east-2-290000338583/training/1-3

アルゴリズム
アルゴリズム ARN -
トレーニングイメージ 763104351884.dkr.ecr.us-east-2.amazonaws.com/tensorflow-training:2.6.0-cpu-py38

```
# 確認
estimator.latest_training_job.describe()
# 結果抜粋
{'TrainingJobName': 'training-job/tensorflow-training-YYYY-MM-DD-HH-MI-SS-mmm',
 'TrainingJobArn': 'arn:aws:sagemaker:{REGION}:{ACCOUNT_ID}:training-job/tensorflow-training-YYYY-MM-DD-HH-MI-SS-mmm',
 'ModelArtifacts': {'S3ModelArtifacts': 's3://sagemaker-{REGION}-{ACCOUNT_ID}/tensorflow-training-YYYY-MM-DD-HH-MI-SS-mmm/output/model.tar.gz'},
 'sagemaker_program': '"concat.py"',
 'sagemaker_submit_directory': '"s3://sagemaker-{REGION}-{ACCOUNT_ID}/tensorflow-training-YYYY-MM-DD-HH-MI-SS-mmm/source/sourcedir.tar.gz"',
 'AlgorithmSpecification': {'TrainingImage': '763104351884.dkr.ecr.us-east-2.amazonaws.com/tensorflow-training:2.7.1-cpu-py38'},
 'InputDataConfig': [
   {'ChannelName': 'training', 'DataSource': {'S3DataSource': {'S3DataType': 'S3Prefix', 'S3Uri': 's3://sagemaker-{REGION}-{ACCOUNT_ID}/training/1-3'}}},
 ],
 'ResourceConfig': {'InstanceType': 'ml.m5.xlarge', 'InstanceCount': 1, 'VolumeSizeInGB': 30},
 'TrainingTimeInSeconds': 97, 'BillableTimeInSeconds': 97,}
```

1-4 ライブラリや自作モジュールの追加

- コンテナイメージにないライブラリ等を使う場合は、コードのディレクトリ内に requirements.txt を入れるか、ソースコードを格納し、source_dir でコード一式を格納したディレクトリを指定する

```
# 「用意したコード」 ./src/1-4/requirements.txt
beautifulsoup4==4.9.3
```

```
# 「用意したコード」 ./src/1-4/my_module.py
def version_check(module):
    print(f' {module.__name__} version is {module.__version__}')
    return None
```

```
# 「用意したコード」 ./src/1-4/bs4_version_check.py
import bs4, my_module
my_module.version_check(bs4)
exit()
```



```
# トレーニングジョブを実行
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow
estimator = TensorFlow(
    entry_point='bs4_version_check.py',
    source_dir='./src/1-4',
    py_version='py38',
    framework_version='2.7.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role()
)
estimator.fit()
```

source_dir 引数を使い、そのルートディレクトリ(※)に requirements.txt を配置して必要なライブラリを記載することで、コード実行前に pip install -r requirements.txt を自動で走らせることができる。自作モジュールも source_dir で指定したディレクトリに配置することで使用可能。

(※実行時のカレントディレクトリは source_dir で指定したディレクトリ一式を転送した /opt/ml/code で、Python 実行時のコマンドライン引数に entry_point で指定したファイル名が設定されるため)

実行結果

(略)

```
/usr/local/bin/python3.8 -m pip install -r requirements.txt
Collecting beautifulsoup4==4.9.3
Downloading beautifulsoup4-4.9.3-py3-none-any.whl (115 kB)
Collecting soupsieve>1.2
Downloading soupsieve-2.3.1-py3-none-any.whl (37 kB)
Installing collected packages: soupsieve, beautifulsoup4
Successfully installed beautifulsoup4-4.9.3 soupsieve-2.3.1
(略)
```

```
/usr/local/bin/python3.8 bs4_version_check.py --model_dir s3://sagemaker-
{REGION}-{ACCOUNT_ID}/tensorflow-training-YYYY-MM-DD-HH-MI-SS-mmm/model
bs4 version is 4.9.3.
```

(略)

1-5 ハイパーパラメータをコードの外部から入力

- Estimator インスタンス生成時の hyperparameters 引数で dict 型で入力すると環境変数及びコマンドライン引数に設定されるので、引き受けられるようにトレーニングコードを修正する

```
# 「用意したコード」 ./src/1-5/hp_calc.py
import os, argparse
parser = argparse.ArgumentParser()
parser.add_argument('--first-num', type=int)
parser.add_argument('--second-num', type=int)
parser.add_argument('--operator', type=str)
parser.add_argument('--model_dir', type=str)
args = parser.parse_args()
if args.operator == 'p':
    print(f'The answer is {args.first_num + args.second_num}')
elif args.operator == 'm':
    print(f'The answer is {args.first_num - args.second_num}')
exit()
```



```
# トレーニングジョブを実行
from sagemaker.tensorflow import TensorFlow
estimator = TensorFlow(
    entry_point='./src/1-5/hp_calc.py',
    py_version='py38',
    framework_version='2.7.1',
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role(),
    hyperparameters={
        'first-num':5,
        'second-num':2,
        'operator':'m'
    }
)
estimator.fit()
```

hyperparameters引数に指定した内容は、SM_HPS という環境変数に json 形式で格納されるので

```
hps = json.loads(os.environ.get('SM_HPS'))
```

のように受けて辞書形式で使うか、

この例のように argparse を用いてパースして使う方法がある

※ いずれの方法でも default 値は設定したほうが使いやすい

実行結果

(略)

```
SM_HPS={"first-num":5,"model_dir":"s3://sagemaker-us-east-2-290000338583/tensorflow-training-2022-03-31-05-46-58-780/model","operator":"m","second-num":2}
```

(略)

```
/usr/local/bin/python3.8 hp_calc.py --first-num 5 --model_dir s3://sagemaker-us-east-2-290000338583/tensorflow-training-2022-03-31-05-46-58-780/model --operator m --second-num 2
```

```
The answer is 3
```

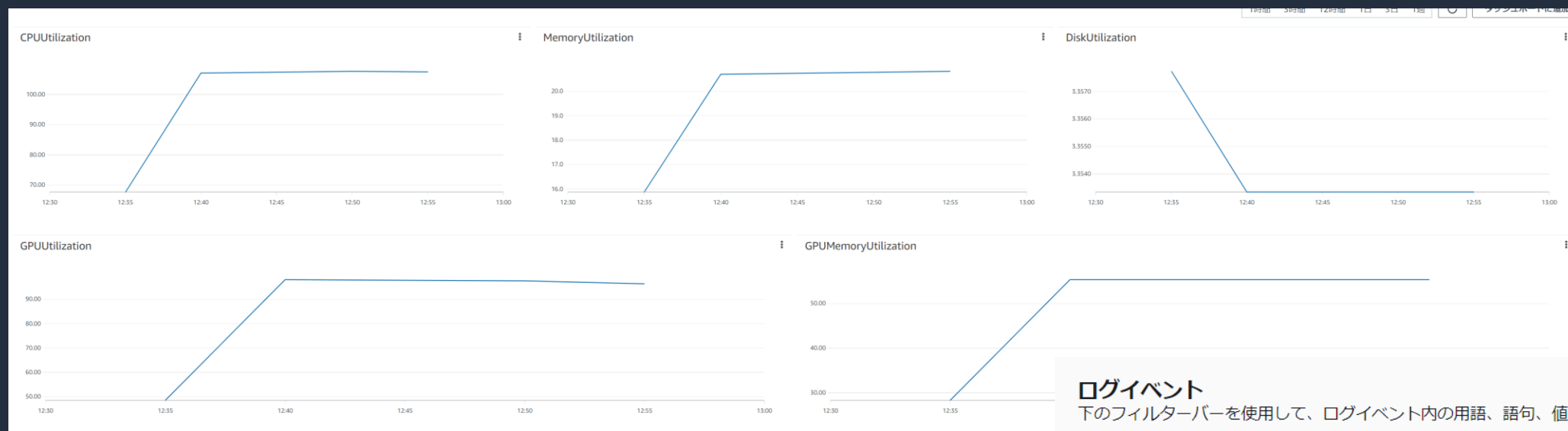
(略)

おしながき

- 機械学習のトレーニングで発生する課題
- Amazon SageMaker Training の概要
- 実際に動作するコードを用いたトレーニング開始方法
- Tips

ログ/メトリクス の確認

- デバッグ時には標準出力やリソースの使用状況を確認したい
- 全て自動で Amazon CloudWatch に連携され記録される



ログイベント

下のフィルターバーを使用して、ログイベント内の用語、語句、値の検索や照合ができます。 [フィルターパターンの詳細](#)

🔍 イベントをフィルター

▶ タイムスタンプ

メッセージ

ロードする古いイベントがあります。さらにロードします。

▶ 2022-03-28T21:48:31.759+09:00	Steps : 330, Gen Loss Total : 47.112, Me1-Spec. Error : 0.752, s/b : 1.699
▶ 2022-03-28T21:48:39.761+09:00	Steps : 335, Gen Loss Total : 46.054, Me1-Spec. Error : 0.722, s/b : 1.698
▶ 2022-03-28T21:48:48.764+09:00	Steps : 340, Gen Loss Total : 44.757, Me1-Spec. Error : 0.749, s/b : 1.704
▶ 2022-03-28T21:48:56.766+09:00	Steps : 345, Gen Loss Total : 47.837, Me1-Spec. Error : 0.755, s/b : 1.698
▶ 2022-03-28T21:49:05.769+09:00	Steps : 350, Gen Loss Total : 46.059, Me1-Spec. Error : 0.730, s/b : 1.699
▶ 2022-03-28T21:49:13.771+09:00	Steps : 355, Gen Loss Total : 52.067, Me1-Spec. Error : 0.872, s/b : 1.693
▶ 2022-03-28T21:49:22.773+09:00	Steps : 360, Gen Loss Total : 51.251, Me1-Spec. Error : 0.774, s/b : 1.697
▶ 2022-03-28T21:49:30.778+09:00	Steps : 365, Gen Loss Total : 45.531, Me1-Spec. Error : 0.751, s/b : 1.696
▶ 2022-03-28T21:49:39.780+09:00	Steps : 370, Gen Loss Total : 48.043, Me1-Spec. Error : 0.760, s/b : 1.701
▶ 2022-03-28T21:49:47.782+09:00	Steps : 375, Gen Loss Total : 43.957, Me1-Spec. Error : 0.723, s/b : 1.702
▶ 2022-03-28T21:49:56.785+09:00	Steps : 380, Gen Loss Total : 43.076, Me1-Spec. Error : 0.741, s/b : 1.705

Git 連携

- コードの開発の作法として、あるいは MLOps の推進で Git を使うのはデファクトスタンダード
- Amazon SageMaker Training では Git リポジトリのコードをトレーニングのソースとすることをサポート

```
# Git リポジトリの設定
git_config = {'repo': 'https://github.com/username/repo-with-training-scripts.git',
              'branch': 'branch1',
              'commit': '4893e528afa4a790331e1b5286954f073b0f14a2'}
```

```
# トレーニングジョブを実行
from sagemaker.pytorch import PyTorch
estimator = PyTorch(
    entry_point='mnist.py',
    py_version='py38',
    framework_version='1.9.1',
    git_config=git_config,
    instance_count=1,
    instance_type='ml.m5.xlarge',
    role=sagemaker.get_execution_role(),
)
estimator.fit()
```

使用したいコードの
リポジトリ、ブランチ、コミットID
を dict 型で宣言

git_config 引数に宣言内容を入力

まとめ

- Amazon SageMaker Training とは？
「用意したコード」と「用意したデータ」を「指定したコンピューティングリソース」と「用意した環境」で実行し、「実行履歴を自動記録」して「アーティファクトを自動で保存」する機能によって、**モデル開発の試行錯誤を楽にする**ものであることを紹介
- 機械学習のコードを一切使わずに、サービスの使い方を紹介
 - トレーニングコードの持ち込み
 - データの持ち込み
 - アーティファクトの転送
 - ライブラリや独自モジュールの持ち込み
 - ハイパーパラメータを外部から入力



資料集・お問合せ・Special Thanks

AWSの日本語資料の場所：「AWS 資料」で検索

The screenshot shows the AWS Japanese website header with the logo and navigation links: お問い合わせ, サポート, 日本語, アカウント, and a button for 今すぐ無料サインアップ. Below the header is a navigation bar with links for 製品, ソリューション, 料金, ドキュメント, 学ぶ, パートナーネットワーク, AWS Marketplace, イベント, and さらに詳しく見る. The main content area features the title 'AWS クラウドサービス活用資料集トップ' and a paragraph of introductory text. At the bottom, there are four buttons: AWS Webinar お申込, AWS 初心者向け, サービス別資料, and ハンズオン資料.

お問合せ

- 技術的なお問合せ
- 料金のお問合せ
- 個別相談会のお申込み

AWSのハンズオン資料の場所：「AWS ハンズオン」で検索

The screenshot shows the AWS Japanese website header with the logo and navigation links: お問い合わせ, サポート, 日本語, アカウント, and a button for 今すぐ無料サインアップ. Below the header is a navigation bar with links for 製品, ソリューション, 料金, ドキュメント, 学ぶ, パートナーネットワーク, AWS Marketplace, イベント, and さらに詳しく見る. The main content area features the title 'AWS クラウドサービス活用資料集トップ' and a paragraph of introductory text. At the bottom, there are four buttons: AWS Webinar お申込, AWS 初心者向け, サービス別資料, and ハンズオン資料.

Special Thanks

- 音楽素材: PANICPUMPKIN様

**Have a nice
Amazon SageMaker Life!**